

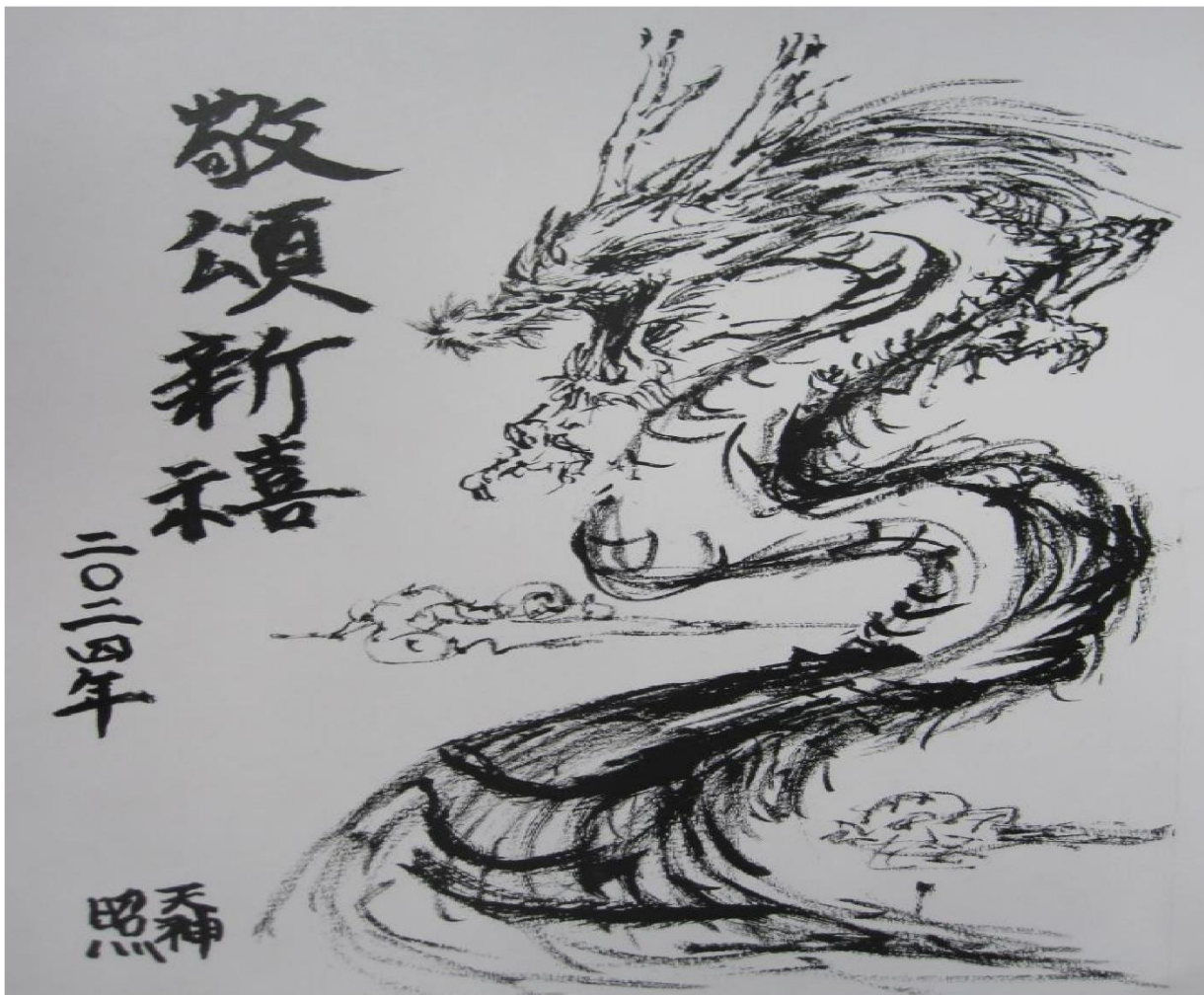
QSK

2024年 新春

No.195

福岡あけぼの会便り

<あけぼの会便り発行時期>
隔月（奇数月）月上旬



作品名：敬頌新禧（けいしょうしんき）※「よい年でありますように」「この一年のご多幸をお祈りいたします」
作者：ステップアップⅢ型 松本浩次さん

新しい年を迎えて

新年のご挨拶

求めているものをかたちに～共に夢を実現したい

特集～ 新年施設長挨拶

それでも歩こう～ みらい

家族会便り

後援会コーナー

ともに明日へ～ ぼのぼのHaKaTa

<あけぼの会便り発行時期>

新春 1月初旬

春 3月上旬

初夏 5月上旬

夏 7月上旬

秋 9月上旬

冬 11月上旬

印刷・折り込み作業は利用者さんと職員、共同で行っております。発行時期が若干変更になる場合があります。ご了承ください。

新年あけましておめでとうございます。

新年のご挨拶とともに、元日という喜ばしい日に発生してしまった、石川県能登半島地震で被害を受けた方々に向けて、心からお悔やみとお見舞いの気持ちをお伝えします。

現在もお被害の情報が入ってきております。被災された方々に迅速に必要な支援、援助が届き一日でも早く平穏な生活が戻ることを願います。報道では高齢者、障がい者への支援が圧倒的に足りていない、日常支援されてある方も被災されており、通常の人的支援が行われず困難な状況に陥っています。災害は社会的弱者に厳しいといわれます。障がい者や高齢者が弱者という認識前に、災害時に守られるべき方を守れない社会の方が弱体であるという認識です。そうであってはならないと思います。福岡あけぼの会も災害時事業継続計画を充実させ、地域の事業全体で協力確認をすることが必要です。

福岡あけぼの会は今年創立20周年を迎えます。これまでの歩みを止めることなく新しい変化に挑戦を続ける法人でありたいと思います。2024年が輝かしい年でありますように、本年もよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 福岡あけぼの会 理事長 判田 章江



多機能型みらい

住吉神社初詣で祈願した縁起物「黒字になる鯛」を抱えた写真です。みらいの喫茶・弁当は連日行列のできる盛況ぶりです。皆様のご協力のおかげと感謝申し上げます。みらいに来ると何か楽しそうだと感じていただける店作り・施設運営を目指しております。メンバー・スタッフ一同お待ちしております。

施設長 榎本 美千代



しのめ

昨年はコロナ期間もあけて、しのめでも作業・イベントともに、スタッフ・メンバーみんなで力を合わせがんばりました。年も改まり、気分も新たにみんなで元気に頑張ります。今年もよろしくお願いいたします。

施設長 有吉 貴之



多機能型ステップアップ

新しい年がスタートしました。今年の干支である「辰年」の「辰」には、“自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態”という意味があるそうです。今年も、メンバー・スタッフみんなで力を合わせて、ステップアップらしさを大事にした「辰」になりたいと思います。今年も、どうぞよろしくお願いいたします！

施設長 町永 吉宏



トライアングル

「明るく、楽しく、思いやり、感謝」トライアングルの合言葉です。今年もその合言葉を大切にして、おいしいお弁当作り、ていねいな作業、あったかいイベントをみんなで楽しみます。良い年になりますように！

施設長 野田 江美



みぎわ工房

本年もどうぞよろしくお願いいたします。空高く昇る龍のように、皆様方にとって飛躍の年でありますようお祈りいたします。

施設長 江頭 大樹



ほのぼのHaKaTa

昨年はハラハラドキドキの連続でした。
2024年はワクワクドキドキの一年になりそうです。
今年も ほのぼのHaKaTaをよろしくお願いいたします。

施設長 森 和浩



心の春希望

「辰」は十二支の中で最も縁起の良い干支だそうですね。
物事を良い方向へ導いてくれる力があるそうですよ。つられて、私たちも
より良い、明るい兆しに歩みを進めましょうかね。

施設長 畝地 祥治



サンサンはかた



祝 ☆ 2024年 ☆
た のしいサークルや行事
つ い来所したくなって
ど んどん笑顔になって
し あわせいっぱいな
サンサンはかたを目指していきます

施設長 寺井 雄三



ステップアップⅢ型

今年も、様々な活動やイベントを通してみんなで楽しめる機会を増やしなが
ら、出会いとつながりを大切にしたい1年にしていきたくと思います。
今年もⅢ型ステップアップをよろしくお願いいたします。

施設長 箭内 味佳



はーとふる・カレッタ

今年も元気で楽しく健康的に地域で暮らしていきます。
メンバーもスタッフもどれだけ楽しんだか年末に報告しあうことを
目標にします！

施設長 判田 章江



博多区第1

障がい者基幹相談支援センター

今年の干支、辰（龍、竜）は、古くから水や海の神として崇められ、
水中にひそんで雷雲を呼び、竜巻になって天に昇り飛翔するといわ
れ、自然のダイナミズムを象徴するかのようです。
エネルギーに満ちた良い年になりますように。

施設長 三浦 邦子



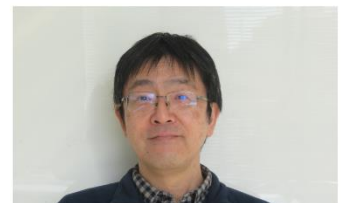
東区第3

障がい者基幹相談支援センター

コロナによって制限されていたものが、以前のように日常に戻ってきている気が
します。

当たり前の日常、穏やかな生活を維持するために、力を合わせて業務に取り組ん
でいきます。どうぞよろしくお願いいたします。

施設長 宮本 政智



事業所通信

各事業所では休止していた事業や
イベントも少しずつ再開されています。

ステップアップⅢ型 糸島に行ってきました

Ⅲ型では外出行事で今回は糸島への日帰り旅行（白糸の滝でのヤマメ釣り・伊都菜彩で買い物）に行ってきました！



心の春希望 クリスマス会

毎年恒例のクリスマス会。今年はいつものより少し豪華なケーキとナゲットを用意してみました。今回は、利用者さんとボランティアさんと一緒にケーキプレートの準備ができました。出し物も盛り上げ上手な演者さん達がのど自慢を披露してくれました。元気いっぱいの姿でした。楽しいひと時が良い思い出になってくれればと思います。



トライアングル クリスマス会

12/16にクリスマス会をしました。ピザやケーキなど、みんなで美味しいものを食べたり、ゲームをしたりして、盛り上がりました！



ケーキはイメージ画像です！！



ピザやパスタそれからケーキもありました！



ジェスチャーゲームで盛り上がりました！

多機能型ステップアップ 忘年会を行いました

ステップアップでは、12月に忘年会をおこないました！新鮮な海鮮料理と、カラオケに、お楽しみ抽選会・・・楽しむことができました。2023年を無事に終えることができ何よりです！2024年もよろしくお願いたします。



みらい 松林保存ボランティア

みらいは先日「松林保存ボランティア」というイベントに参加してきました。このイベントは、糸島の海岸にある松林の保存を目的に近辺の清掃をおこない、清掃後は糸島の牡蠣小屋にて食事をするという内容になっています。新年明けてすぐのイベントでしたがみらいからも多くの参加がありました。皆さん、落ちた枝を拾ったり、ごみ拾いをしたりと一生懸命に作業をしていました。清掃後は牡蠣小屋にて旬の牡蠣をたくさん食べてきました。参加された利用者さんからは、「朝から外の掃除をして気持ちが良かった」「思ったよりたくさん牡蠣が食べられて満足」など嬉しい感想がたくさん聞かれました。

今年1年の良いスタートをきる事が出来ました！



それでも歩こう

ふるさと

連載コラム No. 41

私の地元はとても田舎な町です。ビルや商業施設はなく、田んぼや川がたくさんありどちらかというと人より動物の方が多いそんな町です。

私は今まで地元があまり好きではありませんでした。なぜなら、どこに行くのも車が必要で電車も2時間に1本しか通っていないなど理由は様々あります。

そして、少し遠縁になっていた地元で今年の正月、数年ぶりに帰省をしました。

通っていた小学校・お菓子を買っていたタバコ屋・夕方まで遊んでいた友達・実家のごはん、そんなものに囲まれる中でふと、「あの頃に戻りたいな」と感じました。

いつまでも居場所であり続けてくれる地元を少し好きになりました。

多機能型みらい 秋好 崇人

家族会便り



みんなねっと 埼玉大会に参加して

第15回全国精神保健福祉家族大会が2023年10月14日～15日にさいたま市で開催されました。メインテーマは『家族まかせにしない社会に』でした。

ここでは、2日目の第1分科会について記載します。

第1分科会は『ケアの脱家族化を考える～本人と家族双方の自己実現をめざして～』というテーマで、ファシリテーターに佛教大学の塩満卓氏、発言者に山口ふみ子氏（さいたま市もくせい家族会）、他3名のそれぞれの立場の方が登壇されました。

まず、佛教大学の塩満氏によるお話があり、家族はケアの責任を強いられている、施策や社会福祉の不充足状態を補う無償の人的資源として家族は位置付けられているとされました。同居から非同居へ移行していくには、家族以外に『頼りになる人』を見つける事が大切。そして、家族と本人の問題を切り分けること。家族は家族会等に入り学んでいく。本人は、日中活動で仲間を増やしていく。専門家が入り、親と子の認識のずれを調整していくことが大切。直接的なケアは専門家に委ねて、家族は家族ゆえの情緒的なケアを担っていきましょうと語られました。

その後、さいたま市もくせい家族会の山口さんが親の立場からお話ししてくださいました。息子の発症から、3つの壁にぶつかりました。それは、・精神疾患について知らない、・相談先がわからない・医療につながる術がない、悲嘆にくれた日々の始まり、『無知の涙』（第1の壁）でした。次は、家族会につながり日々学ぶことで知った、・日本における精神医療の実態、・社会にある偏見、内なる偏見、・社会資源の貧しさ、といった個々の努力だけではどうにもならない『深く暗い闇』（第2の壁）でした。そして、第3の壁、・回復の希望が持てない、・先の見通しがつかない、・親が犯罪者となるかもしれない恐怖といった危機につながる壁でした。そんな折、『中動態』という考え方と出会いました。『中動態』とは？・犯人捜しをしない・出来事を正確にただ見る・人と事を分けて考える、という考え方です。そして、薄く広く依存しているのが、人間である。自立とは、依存先を増やすことなのだ学びました。そしてこの考えのもと導き出したのが、・責任を取らされる家族は解散・ちゃんと見捨てる・自立と依存、です。そして、息子ととことん話し合いました。「あなたは、自分のことは自分で考え、決定して、あなたの人生を歩んでほしい。」と。

そして今は、支援を受けながらグループホームで生活しています。息子は社会の中に足を踏み出しました。私は、ちゃんと見捨てることの一つとして、この選択をしました。親の役割とは、・回復を信じて、社会に委ねる・学び続け、そして体験を語らねばならない・発信することだと確信しました。この答えが、第3の壁『岐路に立つ』でした。当たり前の人として、自分で考え、選んでいく人生を親として、私は応援していきたいと思えますと語られました。

みんなねっと埼玉大会は、1日目、2日目共に、深く心に響きました。ここまで家族のみに焦点をあてたテーマでの講演は、なかなか無かったのではないかと思います。

特に2日目の第1分科会では、自分の思いがそのままに語られているようで、今までのことが思い出され涙が出ました。

福岡からは遠かったけれど、家族学習会でつながりのあるメンバーと実際に会うことができ、夜はみんなで語り合い、北は北海道から南は沖縄までのメンバーと共に過ごせた事は私の宝物になり、私は一人ではないと改めて思いました。

そして、私もこれからずっと学び続け、語り続け、発信し続けていこうと心に誓いました。



(すずめのお宿)

福岡あけぼの会後援会コーナー

〒815-0082

福岡市南区大楠1丁目35-17

電話 092(791)5858

mail kouenkai@f-akebonokai.jp

**進めよう希望する地域生活を
実現する地域づくり**

厚生労働省は昨年12月『令和6年度障がい者福祉サービス等報酬改定における主要事項』を公表。障がい者が希望する地域生活を実現する地域づくりの対応策を示したもので、具体的には①障がい者が希望する地域生活を実現・継続するための充実②医療と福祉の連携の推進③精神障がい者の包括的な支援を掲げている。

つながる地域との連携

精神障がい者保健福祉手帳の所持者が年々増加（福岡市で2019年までの14年間で3.8倍）する中で事業、医療機関等のより積極的な対応を打ち出しているものだが、私たち福祉関係者は、地域住民や関連機関とさらなる連携、協働を進め、人々の暮らしと向き合い、支えなければなりません。

令和6年がスタート。後援会発足20年の歴史を支えていただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

「心の春希望」クリスマス会開催

地域活動支援センター「心の春希望」のクリスマス会は12月23日開催。利用者によるギター弾き語りやピアノ演奏（写真）等ボランティアを含め通所者が楽しいひと時を過ごした。福岡市社会福祉協議会の赤い羽根



が楽しいひと時を過ごした。福岡市社会福祉協議会の赤い羽根

募金支援事業として福岡あけぼの会後援会が毎年応援。

松林の再生・保存活動

福岡あけぼの会「リフレッシュ&ボランティア隊」（後援会主催）は1月13日、糸島市志摩・弊（にぎ）の浜海岸で幼松の保護、清掃作業活動を実施。2014年から毎年続く恒例の作業。今年からは法人内5事業所から34名が参加。作業の後は美しい海岸周辺を爽やかな海風を受け散策。同市・岐志のカキ（牡蠣）小屋では各事業所との交流を楽しんだ（写真）。



「わっ！可愛い人形さんが出来た」

福岡市の子育て支援施設・子どもプラザ・ひつじのおうち（福岡市南区・学校法人西花畑学園が受託運営）から親子の歓声。

就学前の乳幼児とその保護者が自由に利用できる「ひつじのおうち」で、福岡あけぼの会の地域活動支援センター「心の春希望」通所者・木内ユリ子さん（78）が折り紙教室を開いたのは令和4年6月。以来毎月第2と第4木曜日の午後の約1時間

クリスマスのサンタや可愛い動物など四季折々にちなんだ折り紙を親子と一緒に製作。
メリット多い折り紙
折り紙を折ることは、ただ折って楽しむだけでなくお子様、保護者を含め周囲のいろんな人とのふれ合いのきっかけを生む。折り紙独特のきめ細かい手作業による忍耐、集中力が養われ



ボランティア2団体に 厚労大臣感謝状

福岡市のボランティア2団体への厚生労働大臣感謝状授与式が昨年暮れ、福岡市社会福祉協議会であった。

受賞はくボランティア109（アイン・ナイン）（福岡市中央区・太田操代表）は、大正琴、カラオケ等芸能ボランティアとしてグループホーム等主に介護支援事業を訪問。発足10年以上でオカリナ演奏、詩吟を担当する世話役の内林美恵子さんは「高齢社会、活動の大事さを感じるこの頃です」と。

こころの健康ボランティア「まどか」（福岡市南区・坂井秀光代表）は平成17年発足。精神保健活動と呼ばれる領域で心の病を持つ人々と諸活動を通じて障がい者とともに生きる地域社会を創り出す活動。

事業所紹介

施設名	郵便番号	住所	電話番号	Mail
本部事務局	815-0082	福岡市南区大楠1丁目35-17	092-791-7472	honbu@f-akebonokai.jp
多機能型事業所	多機能型みらい	815-0082 福岡市南区大楠1丁目35-17	092-524-4121	mirai@f-akebonokai.jp
	多機能型ステップアップ	811-2314 糟屋郡粕屋町若宮1丁目1-18	092-938-9388	stepup@f-akebonokai.jp
就労継続支援事業B型	しのめ	814-0101 福岡市城南区荒江1丁目23-25	092-851-7528	shinonome@f-akebonokai.jp
	しのめプラス	814-0104 福岡市城南区別府5丁目8-19	092-834-4336	shinonome@f-akebonokai.jp
	ほのぼのHaKaTa	812-0041 福岡市博多区吉塚1丁目12-53	092-409-8318	honobono@f-akebonokai.jp
	みぎわ工房	816-0943 大野城市白木原4丁目1-5	092-592-3942	migiwa@f-akebonokai.jp
	トライアングル	811-2417 糟屋郡篠栗町中央4丁目15-3	092-947-3173	triangle@f-akebonokai.jp
地域活動支援センター	心の春希望(I型)	815-0082 福岡市南区大楠1丁目35-17(2F)	092-524-4153	kibou@f-akebonokai.jp
	サンサンはかた(I型)	812-0041 福岡市博多区吉塚3丁目18-36	092-409-2471	sansan@f-akebonokai.jp
	ステップアップ(III型)	811-2314 糟屋郡粕屋町若宮1丁目1-17	092-938-6702	stepup3@f-akebonokai.jp
区障がい者 基幹相談支援センター	博多区第1障がい者基幹 相談支援センター	812-0041 福岡市博多区吉塚3丁目18-1	092-409-2478	hakata1kikan@f-akebonokai.jp
	東区第3障がい者基幹 相談支援センター	812-0054 福岡市東区馬出1-2-23第1岡部ビル102号	092-292-5604	higashi3kikan@f-akebonokai.jp
グループホーム	カレッタ	814-0033 福岡市早良区有田5丁目24-27	092-873-2578	caretta@f-akebonokai.jp
	はーとふる	811-2405 糟屋郡篠栗町大字篠栗3697-1	092-947-6805	heartfull@f-akebonokai.jp

第48回

ともに
明日へ

ほのぼのHaKaTa

〒812-0041
福岡市博多区吉塚1-12-53
TEL 092-409-8318
FAX 092-409-8319

ほのぼのHaKaTaと言えば「吉塚珈琲」です。

久山珈琲さんの監修の下、メンバー・スタッフ一丸となって製造に取り組んでいます。商品ラインナップも徐々に増やし、苦味とコクにこだわった「至高（しこう）」、甘みと軽やかな味わいが飲みやすい「こもれび」、香りとフルーティーな味わいの「雅（みやび）」と充実してきました。

各種販売に積極的に参加する事でリピーターも増え、地域の方にも定着している手応えを感じています。

また、販売に携わるメンバーさん達の就労意欲向上にも寄与しており、これからも大切に育てていきたい授産品です。



「福岡あけぼの会便り」バックナンバーはこちらからご覧いただけます。→



【編集】社会福祉法人福岡あけぼの会 〒815-0082 福岡市南区大楠1丁目35-17 ☎ 092 (791) 7472 (代)

【発行】九州障害者定期刊行物協会（QSK） 〒812-0068 福岡市東区社領1丁目12番4号

年会費 2,000円（購読料含む） 一部 100円